

## 舟形土器再考

－東日本の資料集成をとおして－

田中 英世

### 1.はじめに

野呂山田貝塚の舟形土器については、発見の経緯を含めて当紀要第12号の「千葉市野呂山田貝塚出土の舟形土器」に述べてある。当時は類例も少なく、楕円形土器を含めて集成を行った（注1）。その後、内野第一遺跡からも舟形土器が出土し（注2）、類例を探索している間に、幾つかの資料紹介・集成が行われ、全国的規模で捉え直す時期にきていることを感じる。また、内野第1遺跡についても、掘立柱建物跡の存在を含めて、改めて再検討する時期にきており、ここでは、遺構の捉え直しの前段階として（注3）、注目される遺物の紹介として舟形土器を取り上げ、記憶を呼び戻す一助としたい。

### 2. 舟形土器についての近年の研究動向

舟形土器には、楕円形土器・葬送儀礼用の土器・純粹に舟を模した土製品等があり、北海道にも別系統の舟形土器が存在する。近年は低地遺跡の調査により、木製品の出土も多く「舟形」と呼称される例も多い。八木獎三郎の椎塚貝塚の報告中に「船舶ニ似テ」と表現されたのが初出と言われている（注4）。その後、西村真次は小谷沼および鈎切洞窟の刻舟について論じ、大野靈外は寶ヶ峰遺跡出土の「土製舟形」を紹介、八幡一郎は寺山配石遺跡出土の楕円形土器について述べている（注5）。近年は、中村耕作氏による関東・中部地方を中心とした葬送儀礼用の舟形土器の集成・検討や深澤芳樹氏による出土資料の集成が行われる一方で、茨城県部室貝塚・秋田県大芦I遺跡出土例の報告や宮城県南境貝塚出土の刻線資料による当時の漁法に至るまでの検討等が行われてきた（注6）。また丸木舟を中心としたシンポジウム等も各地で行なわれ（注7）、埼玉県を中心とした埋没台地の調査により、丸木舟の出土例も増し、それに伴い舟形土製品に加え木製品の存在もクローズ・アップされてきている（注8）。

ここでは、新たに舟形製品を類型化し検討を行うが、分類の基本は中村氏によるものを踏襲する。しかし、中村氏の分類は土器・上製品を対象にしたものであり、木製品、あるいは繩文時代でも稀にみられる線刻文については言及していない。ここではこれらを含めて、P：土器・上製品、T：木器・木製品、S：石製品とし、第1類—舟を模したと思われるもので、a種—長楕円形を呈し舟底が半円形を呈する。b種—舟底が平らで構造舟の外観を呈する。千葉市野呂山田・内野第1遺跡例等。第2類—中村耕作氏の一連の集成による関東・中部地方に分布の中心が認められる葬送儀礼用のもの。東北地方では類例は少ない。第3類—茨城県部室貝塚例のように楕円形を呈するもの。第4類—ミニチュア上製品。第5類—線刻例。a種—土器に行う例。b種—石に行う例がある。線刻例には春成秀爾氏の指摘のように真贋問題があり（注9）、今回は問題例を除外してある。資料の真贋問題は考古学の根本問題であり、資料集成でも実見して集成を行うべきであり、ここに現在考古学の大きな問題点がある。

### 3. 個別遺跡例

#### 関東・甲信越地方

一時の大規模開発は減少傾向にあるが、その時の報告書が随時刊行されてきており、資料の増加が急激に増している。前期では埼玉県さいたま市深作東部遺跡群の関山式土器と千葉県佐倉市向原遺跡の諸磯 b 式の 2 例が該当する。深作東部遺跡群は紡錘形をなすが、向原遺跡例は破片の接合により楕円形をなすと思われるが明確な形は不明である。中期では阿玉台式の千葉県八千代市ヲサル山遺跡例と千葉市根崎遺跡の 2 例がある。ヲサル山遺跡は注口土器で、根崎遺跡は大形の容器と捉えられる。加曾利 E 式前半では、現在整理中の茨城県鉢田市吉十北遺跡の双口上器の平面形が楕円形を呈する。長軸方向に孔が設けられており、胴部以下は通常の深鉢形土器と同様円筒形を呈する。

加曾利 E 式後半～堀ノ内式の間には全く認められなくなるが、加曾利 B 式になると西関東地方には太岳院遺跡のような舟形土器が墓壙の副葬品として、東関東地方には部室貝塚例のような舟形土器が分布する。西関東地方の例は横浜市三の丸・町田市野津田上の原遺跡のように明確に墓域内から出土する例や、町田市田端遺跡・神奈川県石神台遺跡のように配石遺跡に伴う例もある。これらの中には鉢形土器や舟形上器どうしが入れ子の状態で出土する例もある。また分布の境界でも、長野県小諸市石神遺跡・東京都二鷹市丸山遺跡 A 地点のように明確な墓域内から出土する例や、群馬県藤岡市谷地遺跡や安中市天神原遺跡のように配石遺跡に伴う例もあるが、大宮市南遺跡のように単独出土の例もある。東関東地方の部室貝塚例は幾つかに分類可能のようであるが（注 10）、茨城県片岡遺跡 S B 5 では異形台付土器・宝ヶ峰式の注口土器と共に出土している。また千葉県内では、佐倉市井戸作・吉見台・井野長割遺跡や銚子市余山貝塚等からの出土が多いが、栃木・群馬県までは分布は認められない。晩期では、群馬県千綱谷戸・長野市宮崎遺跡から浮線網状文の楕円文の土器が出土している他、内野第 1・石ノ塔遺跡・御社宮司遺跡からは舟を模したと思われる紡錘形の船形上器が出土している。千葉市六通貝塚から出土している晩期前半の片口楕円形土器は、神戸市五番町遺跡出土例に類似し、群馬県下田・新潟県分谷地 A 遺跡のような低湿地遺跡から出土する籠胎漆器の水差しに形態が酷似し、埼玉県後谷遺跡の把手を有する土器も本製品との類似が指摘されている（注 11）。関東地方の後期では、近年埼玉県白岡市清左衛門遺跡から舟を模した木製品が完形で出土し、南鴻沼・大木戸遺跡等からは丸木舟が検出されている。千葉県偕當川流域は日本国内でも有数の丸木舟の出土地帯である（注 12）。

#### 東北地方

東北地方は青森県是川・亀ヶ岡遺跡等の低湿地を含む大遺跡が多く、古くから調査が行なわれているが、その調査内容が公表されている例は少なく、資料が大学の研究室や地元の収集家の蔵に眠っている例が多い。杉山寿栄男は関東地方では、楕円形を呈する土器は少ないが、東北地方には多いとのべている。おそらく、岩手県青森県亀ヶ岡・是川・石郷遺跡にみられるような土器を指していると思われるが、東北大大学や弘前大学による図譜や集成図をみても決して多くはない（注 13）。種々の研究会等で集成化が行われているようであるが、埋もれている資料の再発掘が急務であろう。是川遺跡では明治大学の調査により、岩手県大芦 I 遺跡からも丸木舟を模した流線形の舟形土製品が出土している。また、南境貝塚からは舟の線刻を施した砾が出土しており、その真贋や外洋航海の可能性まで検討が行われている。福島県では魚や蟹を線刻した砾が発見されており、秋田県には鮈石と呼称される魚形文刻石が分布する。東北新幹線や高速道路の工事による低湿地の調査で舟形木製品の出土も認められるが、現在はこれらを

総合的に結びつける必要がある（注14）。近年はそれらの資料の公表をはじめとして、資料の集成化や、山形県小松崎・青森県岩渡小谷遺跡等の水場遺跡が相次いで調査が行われ、資料の増加が計られつつある（注15）。岩渡小谷遺跡は舟形木製品8点が検出されている。完形2・器形復元可能1・船首先端欠損1・破片4である。材質はキリ2・コシアブラ1・ウルシ2・ハシギリ1・クリ2である。第10図42は堅節形に近い形状で喫水線が高く、外洋にも適した構造になっている。帆走用の装置が発見されておらず、櫂が多く検出されていない点からペーロン漕法（漕手が進行方向に向かって櫂で漕ぐ漕法）であったと考えられる。また、ケヤキ製の鳥形木製品1点も出土しているが、容器未成品の可能性がある。伴出土器は円筒下層式が主体であり、台地上の集落と軌を一にしている。

#### 北海道地方

南境貝塚の報告によれば、1943年に八幡一朗氏により北海道の線刻の集成が行われている（注16）。近年、鷹野光行氏により2度に亘る集成が行なわれ、舟形上器の多くが墓塚から出土していることが確認されており（注17）、猪狩忠雄氏により福島県の竜門寺式土器との関係が論じられている（注18）。また戸井貝塚出土の舟形上製品が準構造船または樹皮舟をモデルとした可能性が指摘され、本土との交流を行っていた舟を模倣したのではないかとの指摘もなされている（注19）。また、石狩川紅葉山49遺跡では、遊水池造成により1995（平成7）年から調査が行われており、縄文時代前期末～中期末・統縄文時代の旧河川が検出され、約3000点の木製品が出土している。中心となるのは縄文時代中期末の旧河川の調査で、丸木舟の先端部の他に、舟形木製容器3点が出土している。舟形木製容器は長さ1m近くあり、捕えたサケ・マスを載せて祝宴用に用いたのではないかと考えられている（注20）。

#### 北陸地方

北陸地方は石川県埋蔵文化財センターを中心となり、「環日本海交流史調査研究記録集会」が行われ、種々の問題が検討されている。平成25年度に舟関係の討論が行われているが、縄文時代については記録に残されていない。福井県が丸木舟について鳥浜貝塚及びユリ遺跡の出土例から、①つくりが浅い。②材質がスギ。③当時の湖岸（古二方湖岸）付近で出土している点をあげ、内水面との交通に利用されていたとしている。隣接地域との関係で滋賀県では縄文時代の丸木舟が30艘以上出土し、分布は湖北・湖東・湖西に広がり、特に内湖が存在した湖北・湖東に多い。時期的には縄文中期に出現し、後晩期に増加する。丸底と平底、横帶の有無は同時期に認められ、利用場所は内水面に限定されるとして、これに対して、京都府市舞鶴市裏入遺跡例（縄文前期中葉）は復元すれば8m以上の、鳥浜貝塚例と似た形態となり、同時期で既に外洋交通に利用されていたとしている指摘（注21）は重要である。新潟県青田遺跡でも縄文晩期の丸木舟が1艘検出されており、山田昌久氏は①船底部が平坦にカットされている。②船体の作りが薄い点を特徴としている（注22）。

#### 関西地方

個々の情報が集まらずに、久保田正弘氏の資料による点が多い。弥生時代の船舶の絵画文・土製品が多く検出されており、今後の集成・研究が急務となる。

#### 4. おわりに

野呂山田・内野第1遺跡の舟形土器を追及して東日本全体を資料化してみた。内野第1遺跡の筋錐形の例が石ノ塔遺跡から、72号住居址出土の例が藤岡神社遺跡から出土していることが確認された。筆者

はこれらの舟形土器は舟を模した土器と考えているが、舟形土器とされる多くは低湿地遺跡出土の遺物が示すように舟形容器（木器）を模したものが多い。その中で、中村耕作氏が集成・検討した十器が葬送儀礼に深く関与していることは、出土状態・分布状況をみても明確である。しかし、加曾利 B1 式期の西関東地方に爆発的に出現したのみで、それ以後は全く認められない（注 23）。小林八東・長竹・前田遺跡等、加曾利 B2 式期以降の墓壙群では伴う上器が小形の注口土器や鉢形土器となり、分布の中心も埼玉県北部に移動する。内野第 1 遺跡では人骨の出土は認められたが、明確な墓壙は把握できない例が多く（注 24）。ほぼ同じ時期に東関東に分布する部室貝塚例の在り方も今後の課題であろう（注 25）。特に千葉市周辺では後期初頭の段階で石棒の石質が、安山岩から綠泥片岩に一変する。その社会的变化の追及も重要であるが、産地からの流通網の変化や周辺遺跡との関係の変化を追及することは重要である。鹿島側下流の上谷津遺跡 2 号住居址からは 90 cm 近い綠泥片岩製の両頭石棒が出土しているが、これを石棒製作址からの運搬には当然丸木舟の存在を考慮しなければならない。このような集落の在り方の他に、従来研究が遅れている丸木舟の研究も今後の問題となる（注 26）。

今回および次回（上版）の資料の集成には、各市町村教育委員会・埋蔵文化財センター・博物館等の協力によるところが多い。それにも増してこのような研究の場所を提供して頂いた千葉市教育委員会・千葉市埋蔵文化財センターおよび発表の場と資料の提供をして頂いた千葉市立加曾利貝塚博物館に心からの感謝を申し上げたい。

#### 注

1. 田中英世 1985 「千葉市野呂山田貝塚出土の舟形土器－施島川流域の縄文時代の遺跡(2)－」『貝塚博物館紀要第 12 号』千葉市立加曾利貝塚博物館
2. 田中英世・古谷涉 2001 「千葉市内野第 1 遺跡発掘調査報告書」 聞千葉市文化財調査協会
3. 「千葉県の歴史」では縄文時代の住居跡 165 軒とされ、教育委員会の報告書では 125 軒とされている。また古墳時代は、両者共に住居跡は 311 軒・方墳 16 基とされている。これは、調査担当者と整理担当者が異なるためであり、私は今でもピット等の取扱選択がなされず、確定的な把柄ができるおらず、掘立柱建物跡もさらに数値存在すると考えている。具体的に公表したのは、2004(平成 16)年に千葉市立加曾利貝塚博物館で行なわれた郷土史講座であり、今後の公表資料は同資料をほぼ踏襲している。なお、掘立柱建物跡については、再度原団から確認する予定である。
4. 開口 滉 1993 「部室貝塚出土の『舟形器』－その形態的特長と文様について－」『玉里村立資料館報第 5 号』同資料館  
中村耕作 2005 「縄文時代後期の舟形土器」『上代文化第 39 号』國學院大學考古学研究会
5. 西村眞次 1916 「小谷沼発見の削舟に就いて」『人類学雑誌第 31 卷第 2 号』日本人類学会  
西村眞次 1915 「鉈切船越神社の削舟」『人類学雑誌第 31 卷第 10 号』日本人類学会
6. 大野雲外 1925 「舟形土製品寫真を観て」『古代日本遺物遺跡の研究』穀部甲陽堂
7. 八幡一郎・矢島栄一 1935 「相模國中都寺山の灰石造橋」『人類学雑誌第 50 卷第 12 号』日本人類学会
6. 高木晃 1999 「久慈市大芦 I 遺跡出土の舟形土製品」『紀要 X V』(附) 岩手県文化振興事業団  
深澤芳樹 2014 「日本列島における原始古代の船舶関係出土一覧」『国際常民文化研究叢書 5』神奈川大学
8. 後藤勝志・相沢淳一 2011 「宮城県石巻市南境貝塚出土の「船を描いた線刻縄について」」『東北歴史博物館研究紀要第 12 号』同博物館および注 4 文献。
7. 滋賀県文化財保護協会 2007 『丸木舟の時代－びわ湖と古代人』サンライズ出版

- 石川県埋蔵文化財センター 2014 「平成 25 年度關日本海交流史調査研究記録集会の記録」『石川県文化財情報第 31 号』同文化財センター
8. 設楽博己他 2005 「水辺と森と縄文人」 国立歴史民俗博物館・東北歴史博物館・新潟県立歴史博物館  
渋谷孝雄・二宮敏郎他 2018 「森と暮らせば」『第 24 回企画展図録』山形県立うたむき風土記の丘考古資料館
9. 春成秀爾 2003 「考古資料の偽造と辨断」『国立歴史民俗博物館研究報告書 108 号』
10. 中村耕作氏は文様によりⅢ～Ⅴに分類している。部率貝塚例はIV類で加曾利貝塚でも出土している。
11. 粟島義明 「蘇る縄文」『第 24 回企画展図録』さいたま県立川の博物館  
2010 「下田遺跡-水辺に暮らした縄文人-」『パンフレット』太田市教育委員会  
村田草人・吉岡卓真他 2007 「後谷遺跡」『第 4 次調査第 3 分冊』桶川市教育委員会
12. 草加市長衡門(前期)・さいたま市大道東・寿能泥炭(中期後半)・旗子・南鴻沼・伊奈町伊奈氏屋敷(晚期)・川越市中老袋(後・晚期)・川口市赤山陣屋遺跡・東京都北区中里貝塚等から丸木舟が出土している。
- 津柳秀実・上沼佑佳 2014 「縄文人のタイムカプセル-南鴻沼遺跡の成果から-」『第 39 回特別展図録』さいたま市立博物館
- 2003 「水場のある集落(白岡町清左衛門遺跡第 5・6 次調査)-さいたま埋文リポート 2011』  
『側埼玉県埋蔵文化財調査事業団年報 31-平成 22 年度』同事業団
- 2003 「大木戸遺跡-さいたま埋文リポート 2016』『側埼玉県埋蔵文化財調査事業団年報 32-平成 23 年度』同事業団
13. 杉山壽栄男 1928 「日本原始工芸」工芸美術研究会
14. 青森市教育委員会 2003 「縄文人の台所・水さらし場遺構を考える-縄文人は水とどうかかわってきたか-」『平成 14 年度 縄文講座』  
岩手県立博物館 1993 「魚ヶ岡文化の北と南」『じょうもん発信展開連事業』岩手県立博物館・岩手県教育委員会
15. 川口亮・村村萬史他 2010～2013 「東北大河原藏の麻生コレクション」『秋田考古学第 54～57 号』同考古学会  
日本考古学協会 2001 「亀ヶ岡文化-集落とその実体-」  
渋谷孝雄・二宮敏郎他 2018 「森と暮らせば」『第 24 回企画展図録』山形県立うたむき風土記の丘考古資料館  
弘前大学日本考古学研究室の一連の研究報告等。
16. 八幡一郎 1943 「骨製針入」『古代文化第 14 卷 8 号』日本古代文化学会
17. 北海道の舟形土器 35 個体に検討を加え、大洞 A～A' に盛行し墓壙に伴う例が多いとしている。  
鷹野光行 1983 「舟形土器について」『御茶の水女子大学人文科学紀要 36』同大学  
2002 「丙び舟形土器について」『お茶の水女子大学附属高等学校紀要 48』同高等学校
18. 猪狩忠雄 1987 「龍門寺式土器をめぐる諸問題」『いわき地方史研究第 24 号』同研究会
19. 北海道立埋蔵文化財センター 2004 「9. 特別展示概要(1)「交流の考古学 3-舟」『年報 9-平成 19 年度(2007)年度』同センター 北海道の船に関する資料は同書に詳しい。
20. 山田晃弘氏は「漆を塗らない白木の容器は、基本的に調理・加工を主とする作業用と考えられています。…舟型容器とよばれるものもこれらと同じ用途が予想されるでしょう。」としている。  
設楽博己他 2005 「水辺と森と縄文人」 国立歴史民俗博物館・東北歴史博物館・新潟県立歴史博物館
21. 小島秀彰 2014 「福井県三方五湖周辺における舟と水上交通」『石川県文化財情報第 31 号』同文化財センター
22. 山田昌久 2004 「青田遺跡の木質遺物から議論できること」『新潟県埋蔵文化財調査報告書第 133 号』 新潟県教育委員会
23. 中村耕作氏によれば、墓壙に伴う舟形土器は「舟之内 2 式新段階以降定着した土器形式であり、加曾利 B1 式期までその

大多数が西關東に分布し、その半数が墓壙からの出土という極めて特徴的な土器である（中村 2005）。」と述べている。壙之内 2 式新段階では 2 列、加曾利 B 1 式では 26 列あるのに対して B 2 式以降は全くみられない。

中村耕作 2013 「第 5 章 土器副葬と土器被覆葬－カテゴリーの供有と対立－」『縄文土器の儀礼利用と象徴』アム・プロモーション

24. 明確な墓壙が確認できたのは 2 号人骨と 3 体合葬の 10~12 号の 2 例のみである。黒色土内の遺構の存在で埋り込みを見逃した可能性がある。4~7 号人骨も埋葬方位はほぼ一致しているが、6 号人骨のみ埋葬形態が異なっている。それについて、今後検討を加えたい。

25. 部室貝塚例の最終形として、安行 3c 式の菅野遺跡群・裏慈恩寺遺跡例の可能性がある。

26. 縁泥片岩の産地は荒川上流の秩父三波川帯で、石棒製作が確認されているのは原産地から離れた古利根川上流の原ヶ谷戸遺跡である。しかし同遺跡からは後期以降の細形の石棒素材が多く、大型素材を大量に確保していた形跡はないようである。栗島義明氏によれば、下締台地で利根川水系に立地する遺跡は貝の花・堀之内貝塚の 2 遺跡のみで、他の下ヶ宮前・内野第 1・上谷津遺跡は鬼怒川水系に位置し、内野第 1 遺跡では 67 cm、銚子市余山貝塚では上谷津遺跡と同じくらい(83 cm 程)の石棒が出土しており、今後追及すべき課題としている。

栗島義明 2012 「縁泥片岩製石棒に見る需給システム」『埼玉県立史跡の博物館紀要第 6 号』埼玉県立さきたま史跡の博物館

南足柄市五反畑遺跡では加曾利貝塚大型住居から出土した異形台付土器が出土している。同遺跡は石棺墓群と安山岩系石棒製作址として知られているが、同遺跡から舟形土器の出土有無は不明である。加曾利貝塚の大型住居出土上の石棒が縁泥片岩であるの対して、同遺跡が安山系である点も不思議である。なお同遺跡からは、茨城県小野犬神前遺跡出土の亀型土製品に類似する遺物も出土している。

安藤文一 1998 「五反畑遺跡」『第 22 回神奈川県遺跡研究・発表会』

1999 「五反畑遺跡」『郷土資料館調査報告書第 9 集－塚田遺跡を中心に（特別展解説者）』南足柄市郷土資料館

## 参考文献

石川日出志 1985 「中部以西の縄文後期浮縫文土器」『信濃第 37 卷第 4 号』信濃史学会

石川日出志 1995 「工字文から波水文」『みづほ第 15 号』大和弥生文化の会

設楽博巳 2004 「遠賀川系土器における浮縫文土器の影響」『島根県考古学会誌第 20・21 集合併号』島根県考古学会

久田正弘 2007 「石川県を中心とした縄文時代晩期中葉から後葉の土器編年について」『石川県考古学会会誌第 55 号』石川考古学研究会

## 考古学研究会

久田正弘 2008 「北陸地方の農耕社会の形成」『弥生ムラの風景』石川県立歴史博物館

湯尻修平 2012 「北陸西部の浮縫文土器(1)」『石川県考古学会会誌第 55 号』石川考古学研究会

荒川隆史 2002 「川辺の縄文集落」『シンポジュム「上みがえる青田遺跡」』新潟県教育委員会







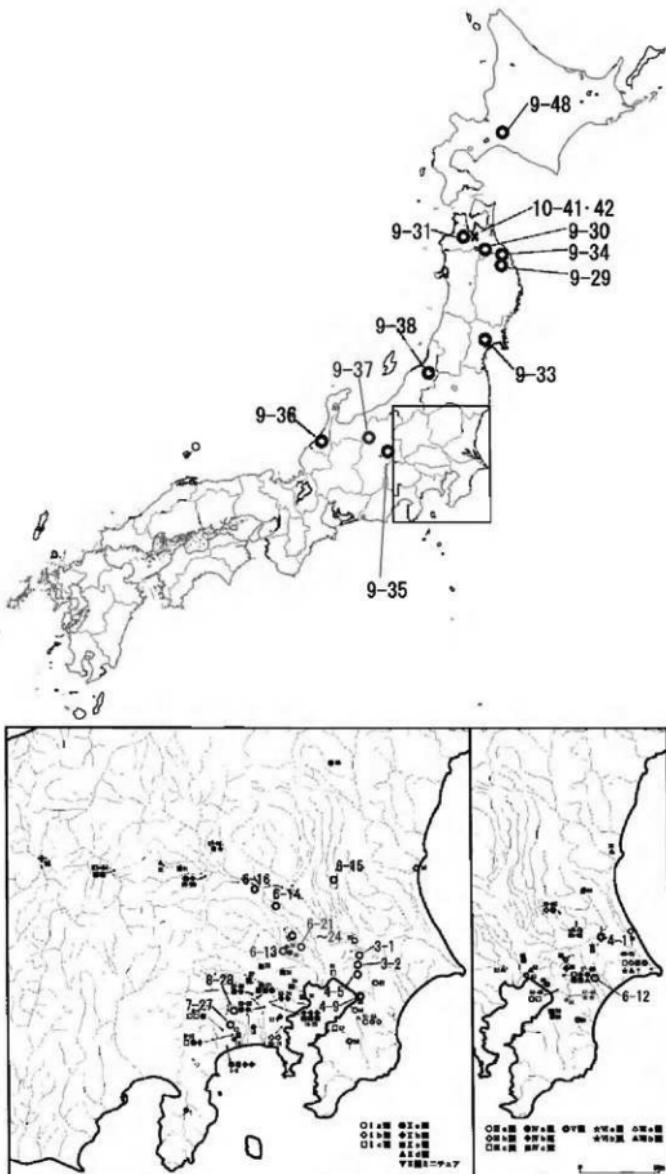




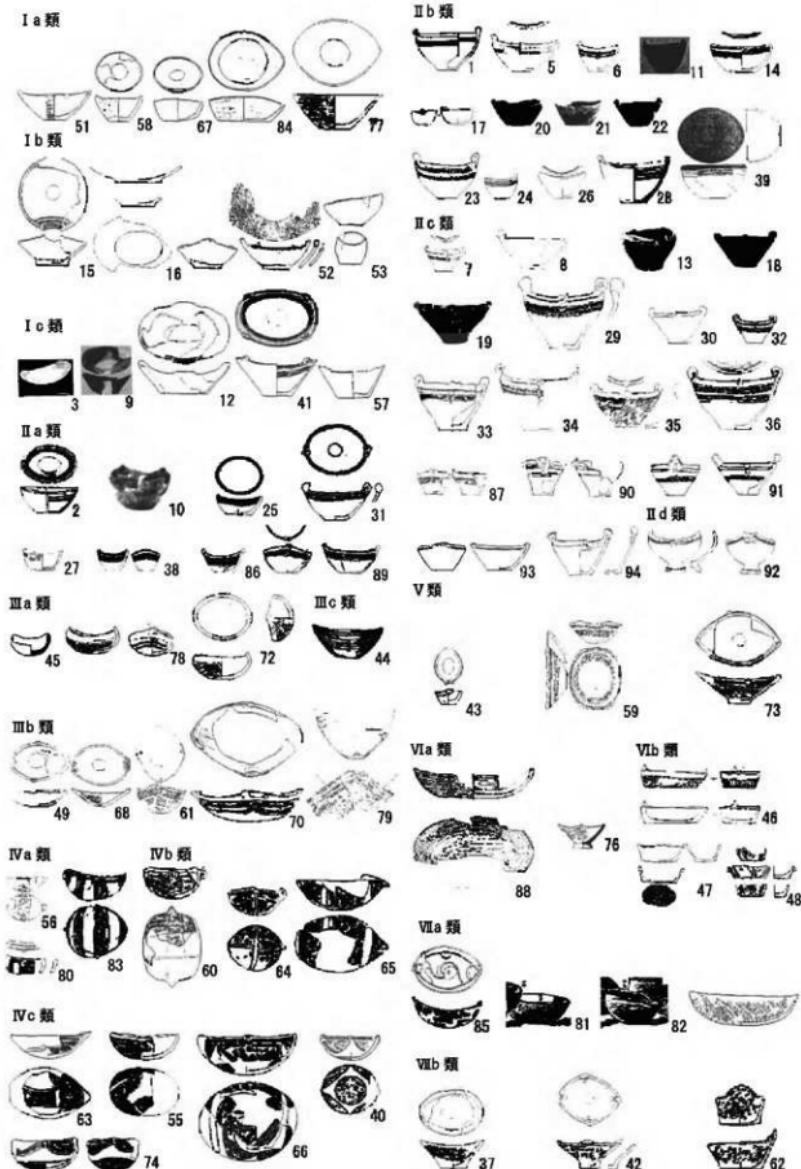


新潟市	新潟・鶴岡方面 等	-	-	-	-	-				1回	新潟市	2013	西日本・山陽地方と比較して、少々少ない。(新潟駅周辺で新潟市内でも、河野 庄成文化館)。	
福岡県	博多方面 等	-	-	-	-	-				1回	福岡市	2013	西日本・山陽地方と比較して、少々多い。(福岡駅周辺で福岡市内でも、博多 庄成文化館)。	
佐賀県	唐津方面 等	-	-	-	-	-				1回	佐賀市	2013	西日本・山陽地方と比較して、少々多い。(佐賀駅周辺で佐賀市内でも、唐津 庄成文化館)。	
長崎県	佐世保方面 等	-	-	-	-	-				1回	長崎市	2013	西日本・山陽地方と比較して、少々多い。(長崎駅周辺で長崎市内でも、佐世 保庄成文化館)。	
熊本県	熊本方面 等	-	-	-	-	-				1回	熊本市	1984	西日本・山陽地方と比較して、少々多い。(熊本駅周辺で熊本市内でも、熊本庄成文化 館)。	
大分県	日久・大分方面 等	-	-	-	-	-				1回	大分市	1989	西日本・山陽地方と比較して、少々多い。(大分駅周辺で大分市内でも、日久庄成文化 館)。	
宮崎県	宮崎方面 等	-	-	-	-	-				1回	宮崎市	1989	西日本・山陽地方と比較して、少々多い。(宮崎駅周辺で宮崎市内でも、日向庄成文化 館)。	
鹿児島県	鹿児島方面 等	-	-	-	-	-				1回	鹿児島市	1989	西日本・山陽地方と比較して、少々多い。(鹿児島駅周辺で鹿児島市内でも、鹿児島庄成文化 館)。	
沖縄県	那覇方面 等	-	-	-	-	-				1回	那覇市	1989	西日本・山陽地方と比較して、少々多い。(那覇駅周辺で那覇市内でも、沖縄庄成文化 館)。	
東京都	東京方面 等	-	-	-	-	-	0回(1-12)			1回	東京都	1982	東京庄成文化館)。(新宿庄成文化館)。	
埼玉県	川口方面 等	(10.3)	(1.5)	3.0	水道	横井小治郎品 等	V35 説教文(1-7) 10-11 説教文(1-Q- B-1)	小説 長編版		1回	埼玉県	1991	西日本・山陽地方と比較して、少々多い。(川口庄成文化館)。	
群馬県	高崎方面 等	(10.3)	(1.6)	3.0	水道	横井小治郎品 等	1/2 説教文(1-7) 10-11 説教文(1-Q- B-1)	小説 長編版	164 回	群馬県	1999	西日本・山陽地方と比較して、少々多い。(高崎庄成文化館)。		
		(10.3)	(0.6)	4.5	火葬	吉田千秋品 等	1/2 説教文(1-Q- B-1)	小説 長編版	164 回	群馬県	1999	西日本・山陽地方と比較して、少々多い。(吉田庄成文化館)。		
小樽市	支笏・函館方面 等	9.0	5.2	2.0	火葬	深野 角形十脚品 等	説教 説教文(C-1 -II-A-B) 説教 説教文(C-1 -II-A-B) 説教 説教文(C-1 -II-B-C)	漫録	14V-12-12	小説	1985	西日本・山陽地方と比較して、少々多い。(支笏庄成文化館)。		
		(6.0)	4.2	2.0	火葬	角形十脚品 等	1/2 説教 説教文(C-1 -II-A-B) 説教 説教文(C-1 -II-B-C)	漫録	14V-12-381	小説	1991	西日本・山陽地方と比較して、少々多い。(小樽庄成文化館)。		
		14.0	11.0	4.4	火葬	吉田千秋品 等	1/2 説教 説教文(C-1 -II-B-C)	漫録	14V-12-983	小説	1991	西日本・山陽地方と比較して、少々多い。(函館庄成文化館)。		
		14.0	11.0	10.0	4.2	(3.3)	火葬	吉田千秋品 等	14V-68-419	小説	1991	西日本・山陽地方と比較して、少々多い。(支笏庄成文化館)。		
山梨県	甲府・笛吹方面 等	(27.3)	(15.5)	(15.3)	(4.0)	(1.6)	井手	新井信芳品 等			山梨県	1997	西日本・山陽地方と比較して、少々多い。(甲府庄成文化館)。(笛吹庄成文化館)。	
		14.0	11.0	10.0	4.2	(3.3)	井手	新井信芳品 等			山梨県	1991	西日本・山陽地方と比較して、少々多い。(甲府庄成文化館)。	
千葉県	千葉方面 等	-	-	-	-	-	吉田千秋品 等	手稿式			千葉県	1997	西日本・山陽地方と比較して、少々多い。(千葉庄成文化館)。	
											千葉県	1991	西日本・山陽地方と比較して、少々多い。(千葉庄成文化館)。	
茨城県	水戸方面 等	(25.7)	(25.6)	19.0	火葬	浅井	V35 説教文(1-7) 10-V 説教文(1-H -V-1)	小説 長編版	14V-92-177	小説文・新井信芳の文政手稿 解説文 説教文(1-7) 10-V 説教文(1-H -V-1)	14V-92-177	小説文・新井信芳の文政手稿 解説文 説教文(1-7) 10-V 説教文(1-H -V-1)	1997	西日本・山陽地方と比較して、少々多い。(水戸庄成文化館)。
		(25.2)	(25.0)	12.0	火葬	浅井	1/2 説教文(1-U -V-1)	小説 長編版	14V-1-97-9197	小説文・新井信芳の文政手稿 解説文 説教文(1-U -V-1)	14V-1-97-9197	小説文・新井信芳の文政手稿 解説文 説教文(1-U -V-1)	1991	西日本・山陽地方と比較して、少々多い。(水戸庄成文化館)。
		(25.2)	(25.3)	3.0	(0.6)	(0.6)	火葬	浅井	1/2 説教文(1-U -V-1)	小説 長編版	14V-1-97-9197	小説文・新井信芳の文政手稿 解説文 説教文(1-U -V-1)	1991	西日本・山陽地方と比較して、少々多い。(水戸庄成文化館)。
		16.0	13.2	7.2	7.6	7.6	井手	吉田千秋品 等	1/2 説教	14V-1-92- 0099	小説文 手稿式	1991	西日本・山陽地方と比較して、少々多い。(水戸庄成文化館)。	
		16.0	13.0	10.0	(8.0)	(1.1)	井手	吉田千秋品 等	1/2 説教	14V-1-92-1	小説文 手稿式	1991	西日本・山陽地方と比較して、少々多い。(水戸庄成文化館)。	
福井県	福井方面 等	-	-	-	-	-	井手信芳品 等	手稿式			福井県	2001	西日本・山陽地方と比較して、少々多い。(福井庄成文化館)。	
											福井県	1991	西日本・山陽地方と比較して、少々多い。(福井庄成文化館)。	
石川県	金沢方面 等	-	-	-	-	-	井手信芳品 等	手稿式			石川県	1999	西日本・山陽地方と比較して、少々多い。(金沢庄成文化館)。	
											石川県	1991	西日本・山陽地方と比較して、少々多い。(金沢庄成文化館)。	
富山県	富山方面 等	-	-	-	-	-	井手信芳品 等	手稿式			富山県	1991	西日本・山陽地方と比較して、少々多い。(富山庄成文化館)。	
											富山県	1991	西日本・山陽地方と比較して、少々多い。(富山庄成文化館)。	
岐阜県	岐阜方面 等	(13.0)	(11.0)	8.0	80 m	18.0	井手信芳品 等	説教		1回	岐阜市	1991	西日本・山陽地方と比較して、少々多い。(岐阜庄成文化館)。	
		(13.0)	(11.0)	8.0	80 m	18.0	井手信芳品 等	説教		1回	岐阜市	1991	西日本・山陽地方と比較して、少々多い。(岐阜庄成文化館)。	
三重県	伊勢方面 等	-	-	-	-	-	井手信芳品 等	手稿式			三重県	1991	西日本・山陽地方と比較して、少々多い。(伊勢庄成文化館)。	
											三重県	1991	西日本・山陽地方と比較して、少々多い。(伊勢庄成文化館)。	
滋賀県	守山・近江方面 等	-	-	-	-	-	井手信芳品 等	手稿式			滋賀県	1991	西日本・山陽地方と比較して、少々多い。(守山庄成文化館)。	
											滋賀県	1991	西日本・山陽地方と比較して、少々多い。(守山庄成文化館)。	
奈良県	奈良方面 等	-	-	-	-	-	井手信芳品 等	手稿式			奈良県	1991	西日本・山陽地方と比較して、少々多い。(奈良庄成文化館)。	
											奈良県	1991	西日本・山陽地方と比較して、少々多い。(奈良庄成文化館)。	
和歌山県	和歌山方面 等	-	-	-	-	-	井手信芳品 等	手稿式			和歌山県	1991	西日本・山陽地方と比較して、少々多い。(和歌山庄成文化館)。	
											和歌山県	1991	西日本・山陽地方と比較して、少々多い。(和歌山庄成文化館)。	
香川県	高松方面 等	-	-	-	-	-	井手信芳品 等	手稿式			香川県	1991	西日本・山陽地方と比較して、少々多い。(高松庄成文化館)。	
											香川県	1991	西日本・山陽地方と比較して、少々多い。(高松庄成文化館)。	
徳島県	徳島方面 等	-	-	-	-	-	井手信芳品 等	手稿式			徳島県	1991	西日本・山陽地方と比較して、少々多い。(徳島庄成文化館)。	
											徳島県	1991	西日本・山陽地方と比較して、少々多い。(徳島庄成文化館)。	
高知県	高知方面 等	-	-	-	-	-	井手信芳品 等	手稿式			高知県	1991	西日本・山陽地方と比較して、少々多い。(高知庄成文化館)。	
											高知県	1991	西日本・山陽地方と比較して、少々多い。(高知庄成文化館)。	
愛媛県	松山方面 等	-	-	-	-	-	井手信芳品 等	手稿式			愛媛県	1991	西日本・山陽地方と比較して、少々多い。(松山庄成文化館)。	
											愛媛県	1991	西日本・山陽地方と比較して、少々多い。(松山庄成文化館)。	
鹿児島県	鹿児島方面 等	-	-	-	-	-	井手信芳品 等	手稿式			鹿児島県	1991	西日本・山陽地方と比較して、少々多い。(鹿児島庄成文化館)。	
											鹿児島県	1991	西日本・山陽地方と比較して、少々多い。(鹿児島庄成文化館)。	
沖縄県	那覇方面 等	-	-	-	-	-	井手信芳品 等	手稿式			沖縄県	1991	西日本・山陽地方と比較して、少々多い。(那覇庄成文化館)。	
											沖縄県	1991	西日本・山陽地方と比較して、少々多い。(那覇庄成文化館)。	

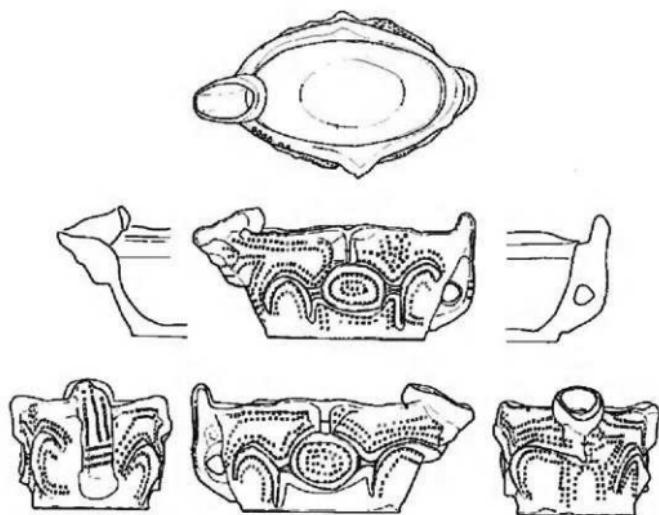
(注記)。書籍類・年鑑類・年表類のみを基準として算出したものである。平成初期は書籍類と年鑑類の両方を算出しているが、その後は年鑑類を除いて算出している。



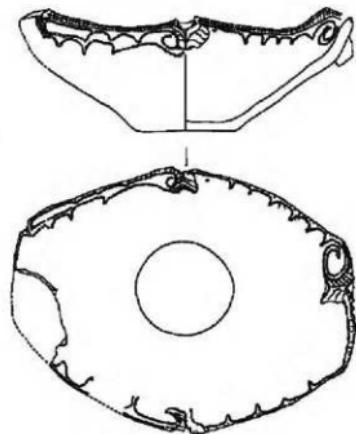
第 1 図 舟形土器分布図（中村 2005 に加筆）



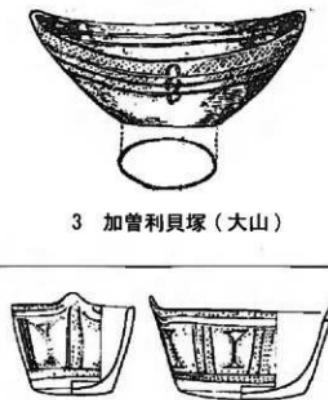
第2図 舟形土器分類図（縮尺不動 中村 2005による。Noは中村を踏襲）



1 ヲサル山遺跡



2 根崎遺跡



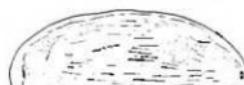
3 加曾利貝塚（大山）

4 西広貝塚

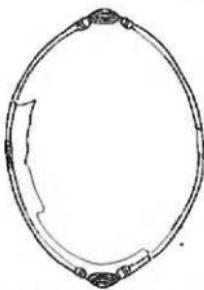
第3図 関東地方 (1- 千葉県)



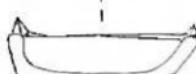
7 パクチ穴遺跡



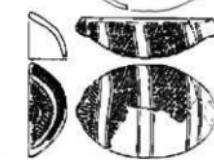
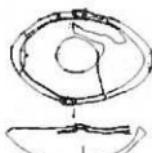
5 内野第1遺跡



6 六通貝塚



8 野呂山田貝塚



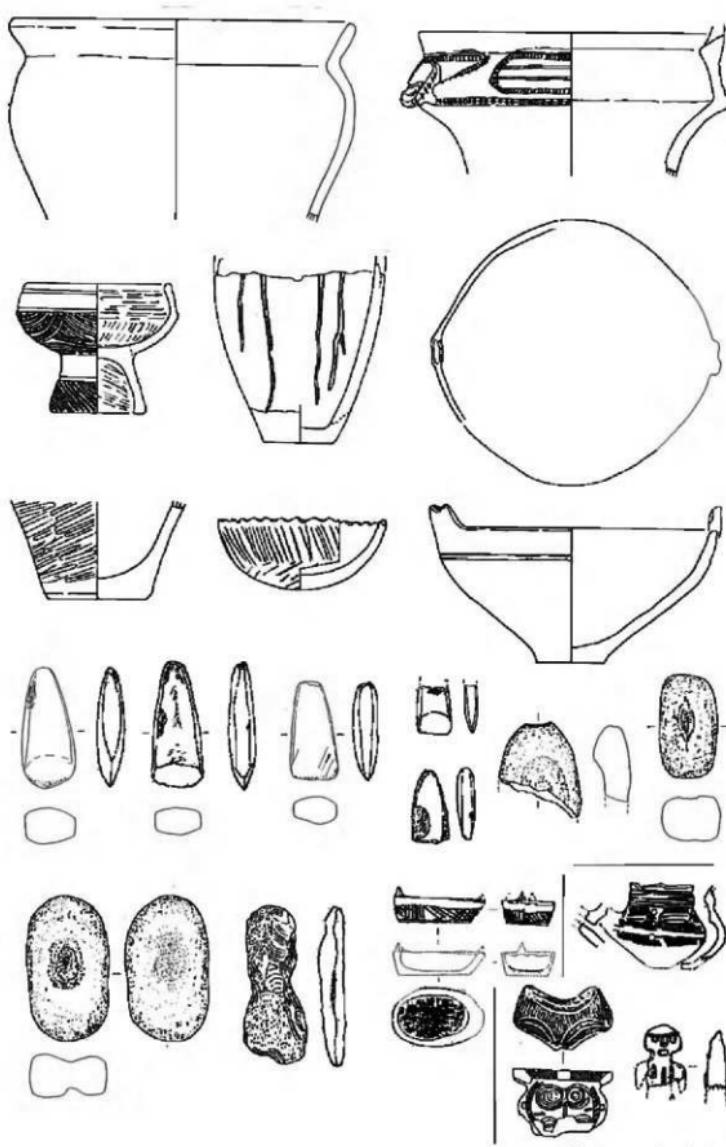
9 懸橋貝塚



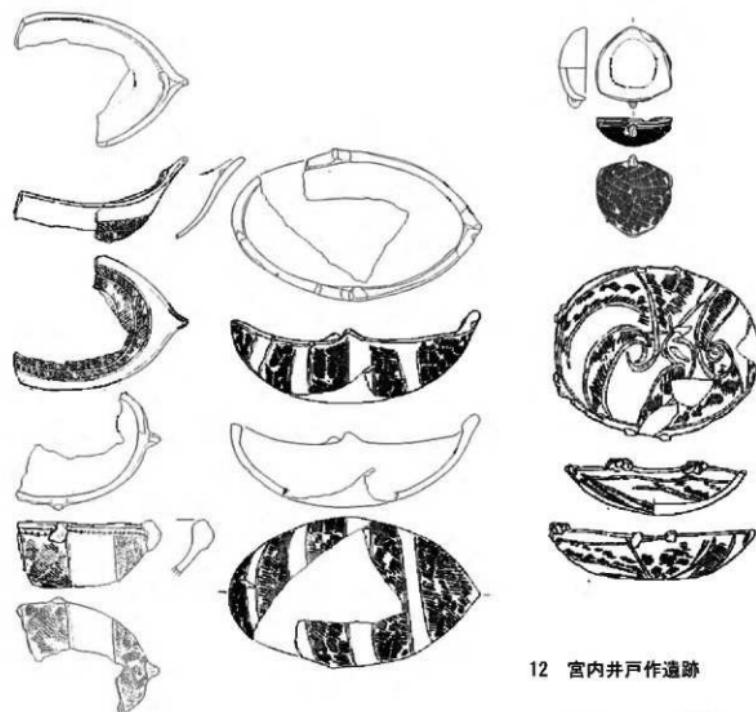
10 加曾利貝塚(2)

11 三ツ矢遺跡

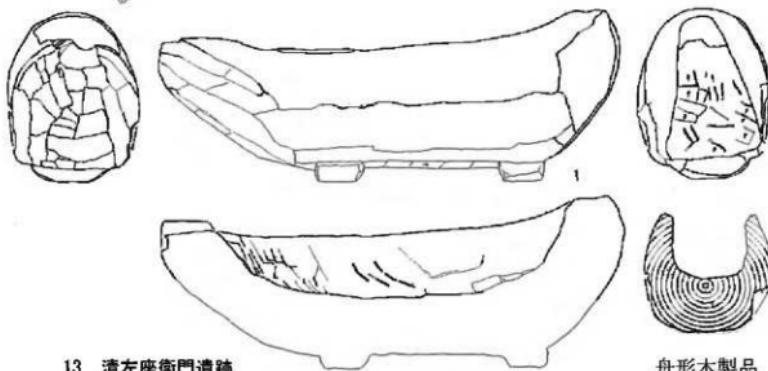
第4図 関東地方(2-千葉県2)



参考（八反目台貝塚）  
第 5 図 関東地方 (3- 千葉県 3・野呂山田貝塚分布調査資料)



12 宮内井戸作遺跡



13 清左座衛門遺跡

舟形木製品

第6図 関東地方(4)



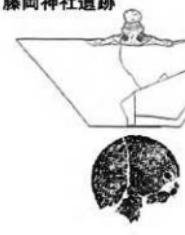
14 藤岡神社遺跡



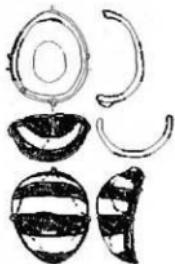
15 寺野東遺跡



16 苔塩遺跡群



17 上高津貝塚 A 地点

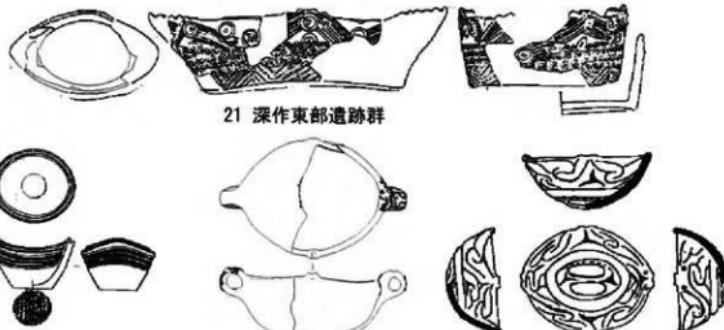


19 三反目貝塚



20 丸山遺跡

18 上高津貝塚 C 地点



21 深作東部遺跡群

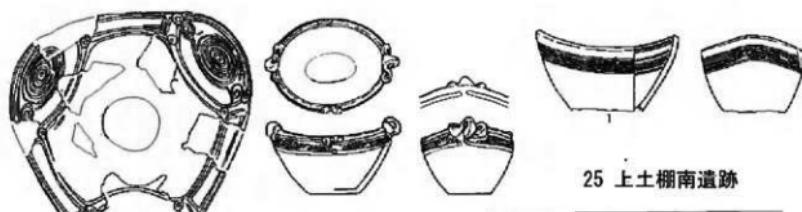


23 後谷遺跡

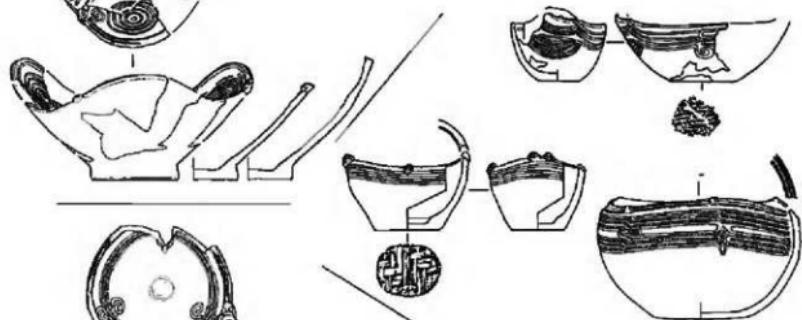


24 裏慈恩寺遺跡

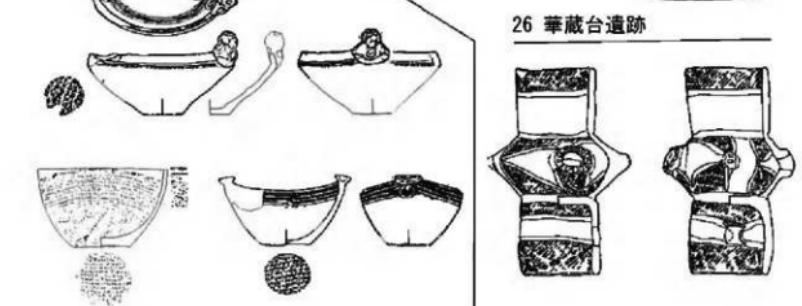
第 7 図 関東地方 (5)



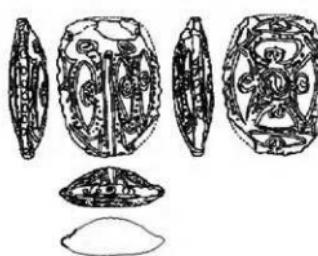
25 上土棚南遺跡



26 華藏台遺跡

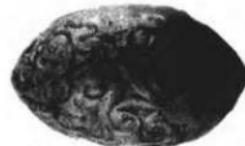


27 太岳院遺跡

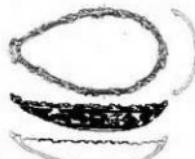


28 五反畠遺跡

第8図 関東地方 (6)



29 是川遺跡



30 石龜遺跡



31 石郷遺跡



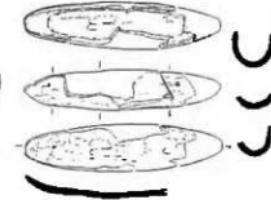
32 宝ヶ峰遺跡



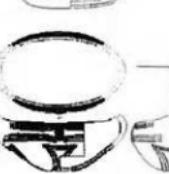
34 大芦 1 遺跡



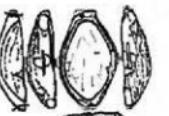
33 南境貝塚



35 御社宮司遺跡



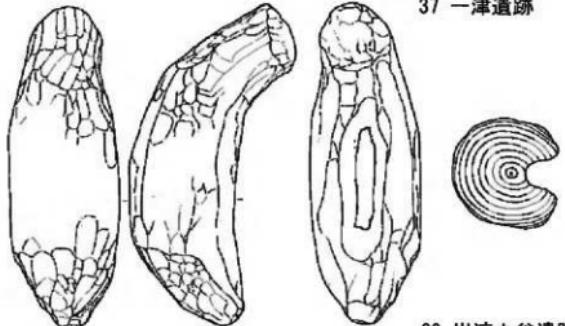
36 御経塚遺跡



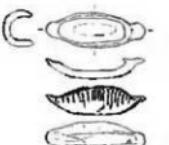
37 一津遺跡



38 六ノ瀬遺跡

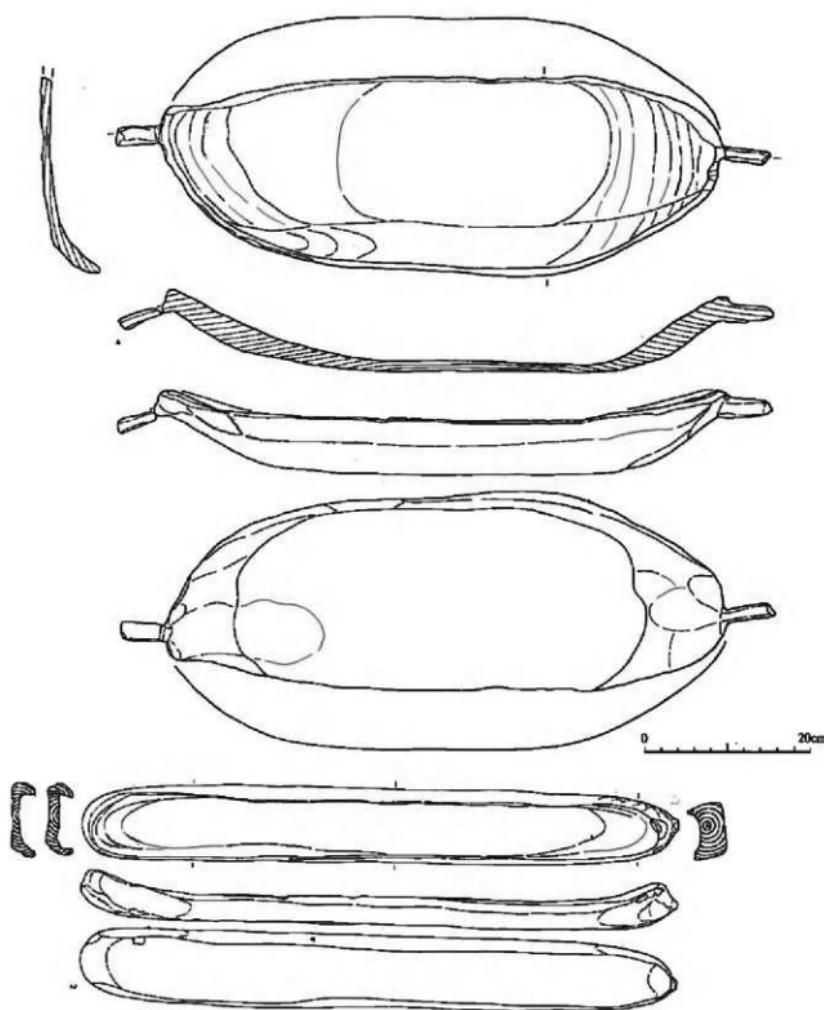


39 岩波小谷遺跡



40 戸井貝塚

第 9 図 東北 (1)・北海道地方 (1)・北陸



41・42 岩谷小谷遺跡 (2)

舟形木製品

第10図 東北地方 (1)